

のぶながやよ み その
延永 ヤヨミ園 遺跡現地説明会説明会資料



掘立柱建物跡1（写真下）・2（写真上）検出状況

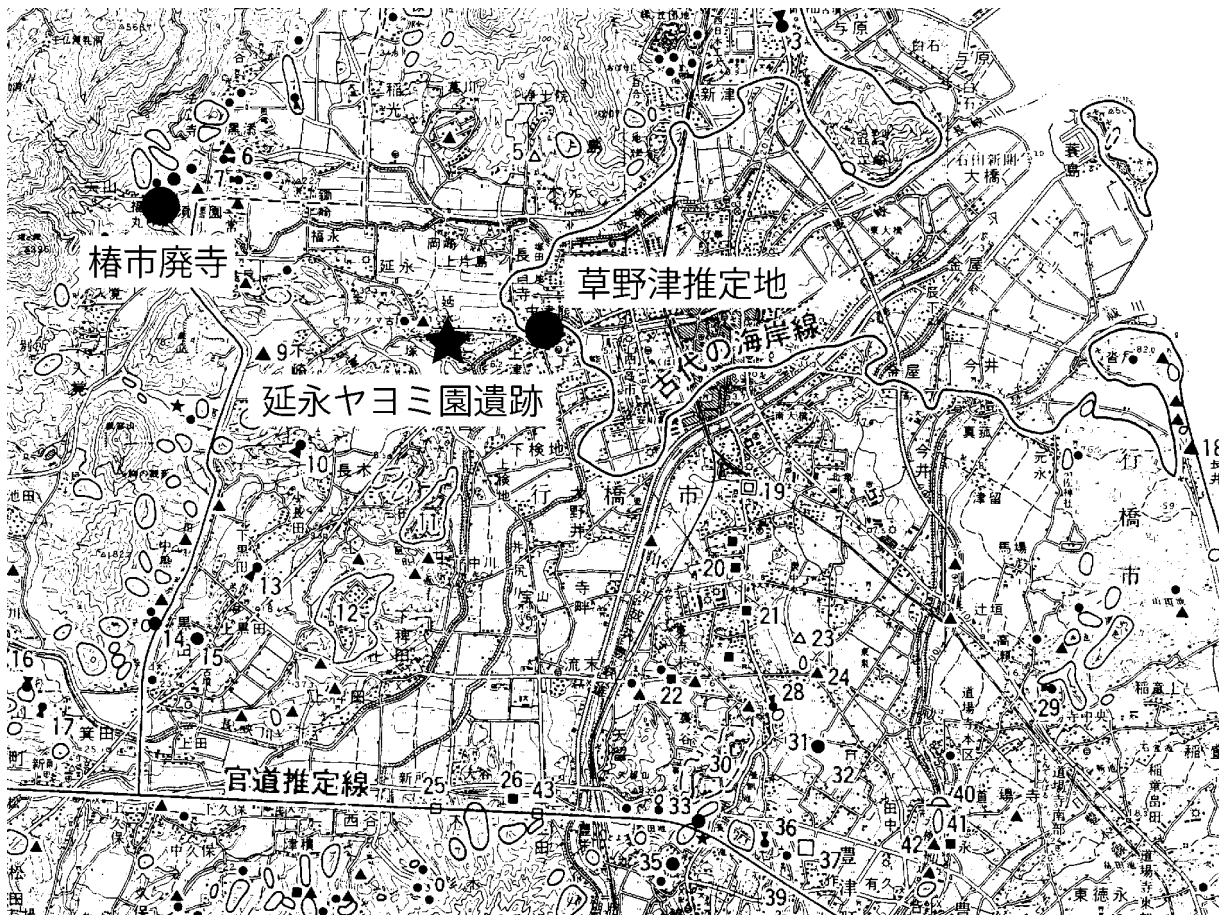
2009年11月7日（土）11：00～

福岡県教育委員会文化財保護課

なぜ調査をしているのか？

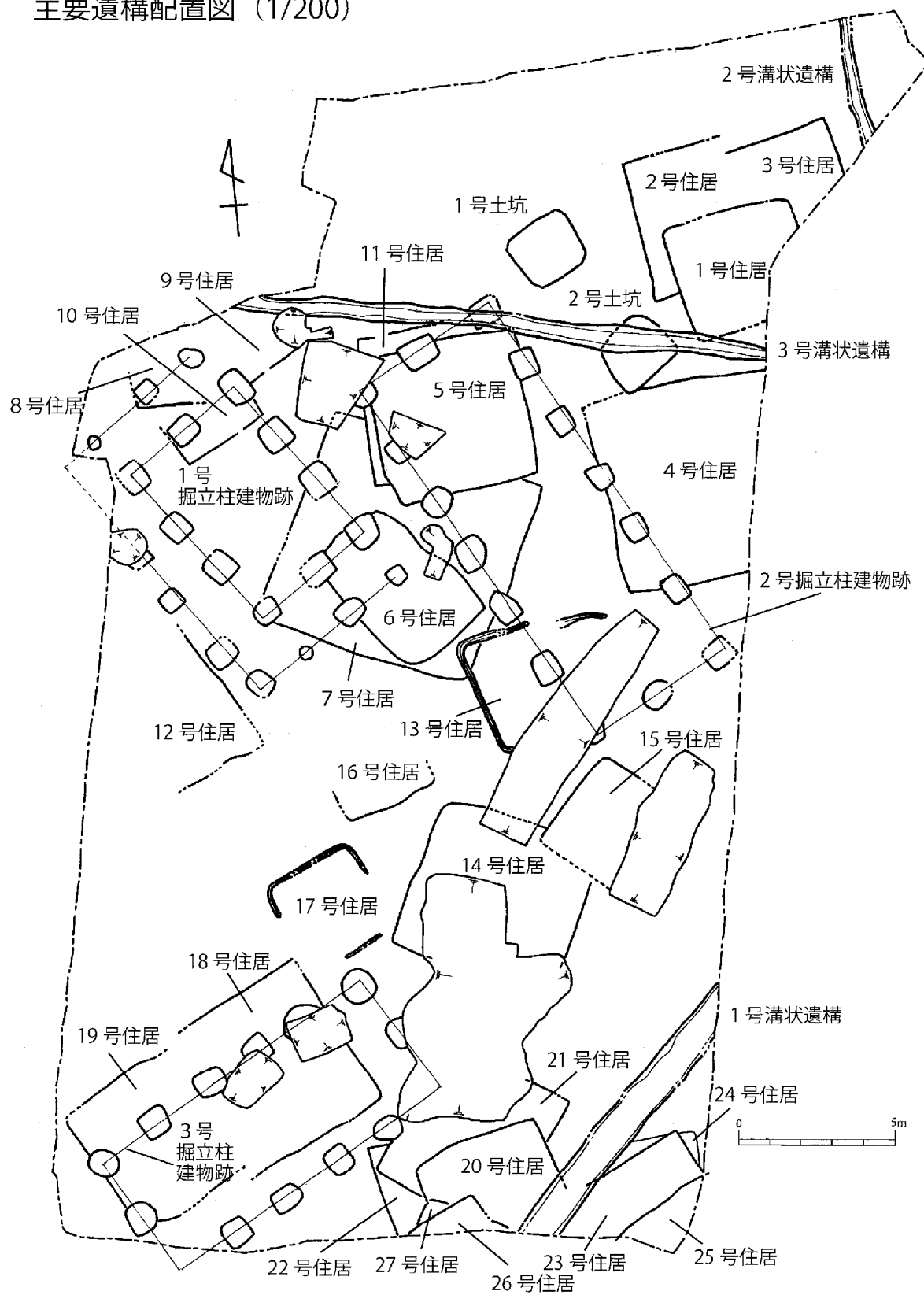
今回の調査は県道直方行橋線の工事に先立って行われました。道路や建物などが作られる際には、その場所に遺跡がないかどうかを調べ、もしあった場合には調査をすることになります。遺跡調査をしなかった場合、そこにどんな人たちが住んでいたのか、どんな暮らしをしていたのかがわからなくなってしまうためです。

調査内容は、後日報告書という形でまとめられます。図書館や博物館においてありますので、自分の家に遺跡があったかどうかを調べられるかもしれません！？

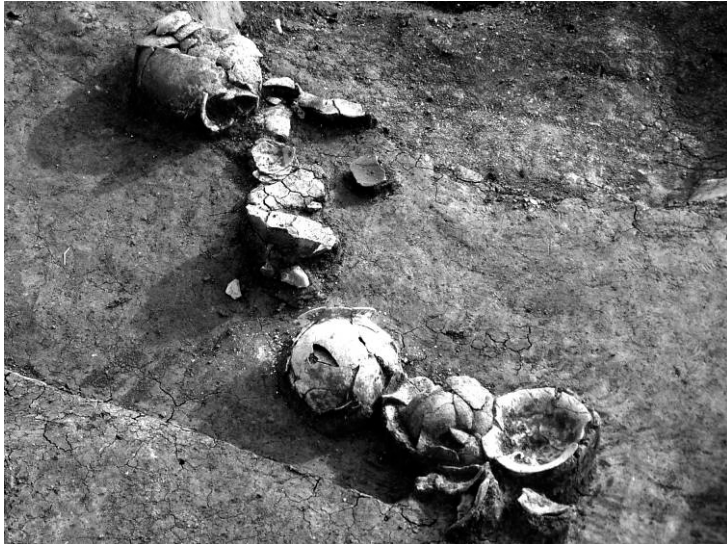


遺跡位置図 (1/80,000)・・・行橋市教育委員会2001『崎野遺跡』より抜粋 一部改筆

主要遺構配置図 (1/200)



どんなものが出ているのか？



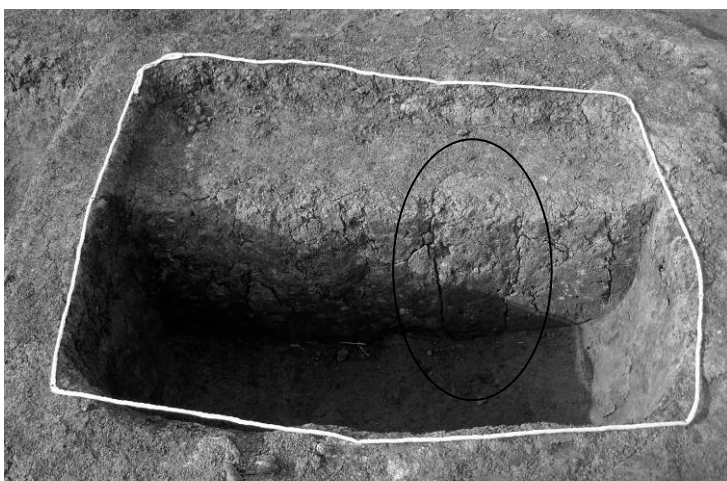
14号竪穴住居跡（古墳時代初頭）遺物出土状況

たてあなじゅうきょあと
竪穴住居跡が27軒検出されました。古墳時代初頭～前期（約1,700～1,600年前）のものや古墳時代後期（約1,500～1,400年前）のものがあります。古墳時代初頭の住居からは土器が大量に出土しました。



20号竪穴住居跡（古墳時代後期）かまど検出状況

古墳時代後期の住居にはかまど作られていました写真中央の土器はかまどに土器をかける際の支えであると考えられます。また、1号住居のかまどでは石が使われていました。



掘立柱建物跡の柱穴（○囲み部分が柱痕跡）

奈良時代頃（約1,300年前）の
ほったてばしらたてものあと
掘立柱建物跡が3棟検出されました。
ちゅうけつ
柱穴は一辺約1m、深さは約70cmであり、大きな柱穴です。柱の痕跡も確認され、柱の直径は約20cmでした。



1号土坑

2号掘立柱建物跡に平行して2基の大型土坑^{どこう}が検出されました。いずれも平面形は一辺約2mの方形で、深さは2m以上あります。壁はほぼ垂直ですが、1号土坑は北壁の下部が、2号土坑は南壁下部が奥に広がっていました。穴の底からは壺^{わん}・皿^{かめ}・甕などの遺物が出土しました。

おわりに

今回の調査では古墳時代初頭～前期、古墳時代後期の竪穴住居群と奈良時代頃の大型掘立柱建物群3棟が発見されました。

特に掘立柱建物は柱穴が方形で大きく、内1棟は3面に庇^{ひさし}を持つ特徴的な構造でした。延永ヤヨミ園遺跡はこれまで、東九州自動車道や国道201号線バイパスの建設に伴う発掘調査が行われており、奈良時代の墨書土器^{ぼくしょどき}や転用硯^{てんようげん}、木簡^{もっかん}などが出土しています。近隣の調査区では「京都大」と書かれた土器が見つかっており、「京都大」の「京都」は当時の京都郡^{みやこぐん}を、「大」は当時の郡の長官である大領^{だいろう}を示すと考えられます。

また、調査区から約1km東には京都平野^{みやこへいや}の主要な港とされる「草野津」^{くさのつ}の推定地があり、調査区から約3km西には初期の古代寺院である椿市^{つばきいち}廃寺^{はいじ}も存在します。

以上、京都郡に關係する文字が書かれた土器の存在、古代寺院や港に近いことを考えると、今回検出された大型掘立柱建物群は草野津、あるいはそれに関連する役所であった可能性が高いといえるでしょう。

~ MEMO ~